

アルパック ニュースレター



三木ホースランドパークがオープンしました（本文中に関連記事があります）

アルパック ニュースレター もくじ

1999年5月1日

- そうぞの森の「さるびの」がオープンしました 2
- うまいもの通信 5
- 全国に広がる「中学生のための防災まちづくり読本」 6
- 三木ホースランドパークがオープンしました 8
- “リフレッシュパークゆむら”に新たな露天風呂が誕生 10
- 芝生の小山の体育館 11
- '99年新人紹介 12
- まちかど 14

NO. **95**

伊賀の国大山田温泉

そうぞの森の「さるびの」がオープンしました

高坂 憲治

「初しぐれ猿も小蓑をほしげ也」

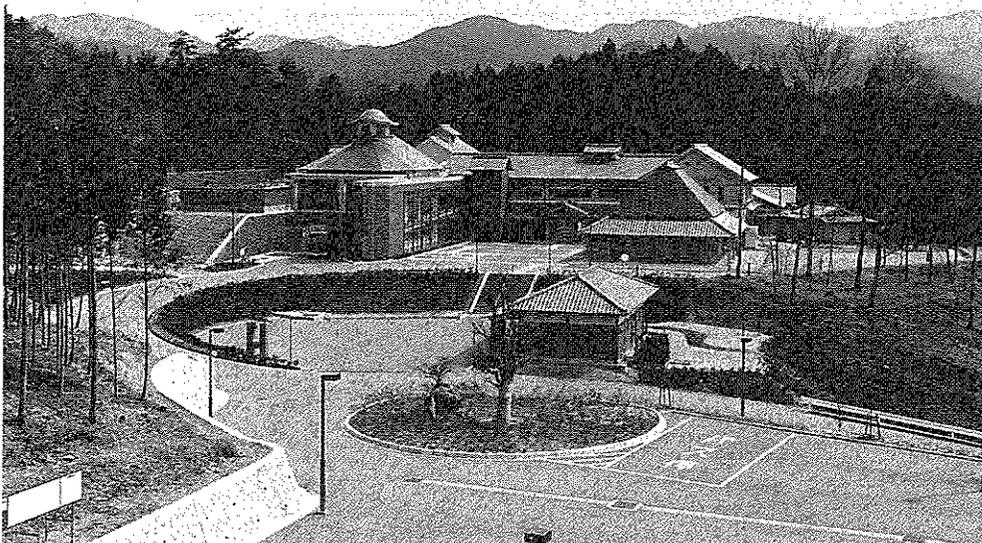
伊賀上野出身の俳聖松尾芭蕉は、上野への帰郷の途中、2度大山田村に立ち寄っています。2度目に芭蕉が大山田村を訪れたのは元禄2年(1689年)、奥の細道の旅を終え、伊勢参拝の後、郷里に向かう道中でのことでした。伊賀街道長野越えの峠道で初時雨に震える猿をみつけた芭蕉が詠んだ句がこの句でした。

三重県津から長野越えで大山田村を経て、上野に至る伊賀街道は古くから伊勢神宮の参拝街道として多くの旅人で賑わいました。伊賀街道の中間点にあたる長野峠は、布引山脈に降った雨を伊勢湾と大阪湾に分ける分水嶺にあたり、また、文化を西と東に分ける境目でもありました。例えば、お正月のお雑煮の餅は、布引山脈をはさんで西では丸餅、東では四角い切り餅となります。さらに、奈良県に多く分布する農家の屋根のスタイルである

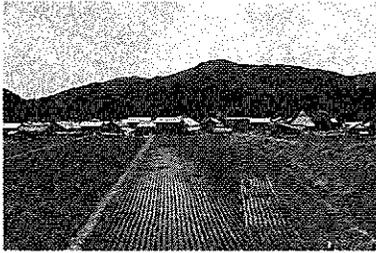
「大和棟」は、布引山脈の西に位置する大山田村にみることができ、「大和棟」の東限となっていることから、大和と伊勢の文化の境界線であることが理解できます。大山田村にはこの伊賀街道に沿って東の平松宿と西の平田宿の2つの宿場がありました。宿場の入り口には常夜灯が今も人々を迎えてくれます。

大山田村を含む伊賀地域はさらに時空を超えたロマンに満ち溢れています。今から二千万年ほど前の第3紀中新世、伊賀で誕生した古伊賀湖が数百万年の移動の結果現在の琵琶湖になったというのです。大山田村を東から西に流れる服部川の川底からは、この時代のゾウやワニの足跡の化石が発見されています。

僕が初めて大山田村を訪れ、村づくりや温泉を活用した施設づくり、村民を中心とした運営について村の方々とは検討を始めたのは平成6年の暮れでした。小雪の舞う中で進めら



さるびの全景



子延の集落



炭焼



瓦細工

れていた温泉の掘削はまだ湧出する気配はありませんでしたが、この時見た大山田村の風景は僕にとって印象的で、その後のデザインを方向づけるものでした。

上野市の東に位置し、伊賀盆地の中で盆地内盆地を形成する大山田村の西部は、工業団地や住宅団地と農村集落が共存する景観が展開され、東部は布引山系の中であって谷筋に沿って農村集落景観が展開されています。そしていずれの景観も村人の生活によって生き生きとしていました。集落が生きているということを実感させてくれる景観です。

温泉の掘削は東部の阿波地区の子延（ねのび）の集落の中で進められていました。子延の集落は伊賀越え道の平松の宿の近くにあり、西に西教山、南に笠取山を臨むことのできる領域感の明瞭な集落であり、時々猿の軍団が訪れる美しい集落です。

温泉を活用した村づくりはまず敷地選びから始まりましたが、僕がお願いしたのは、敷地からこの子延の集落を臨めることでした。

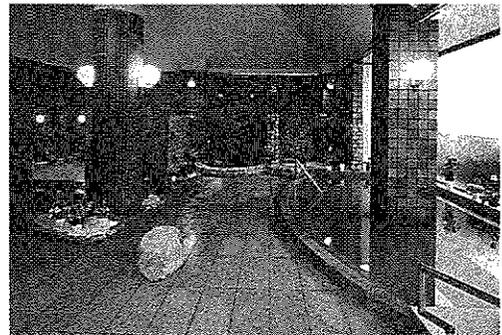


子延の集落とそうぞの森

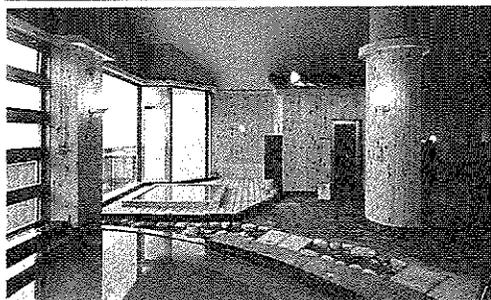
この村民の生活に裏付けられた集落景観は訪れる人に感動を与えるものであると共に、大山田村の原風景として誇りにできるものだったからです。

役場の人と村の中を歩きスケッチしながら話をするたびに、そして時々村人が作ったしいたけや豆腐や、猿の成果である鹿やイノシシを肴に杯を酌み交わすうちに、村人が大山田村の自然や歴史や産業を心から愛し、誇りに思っていることが伝わってきました。かつて東大寺再建のための木材を切り出したこと、凝った細工の瓦の生産、300年の伝統のある祇園祭、若い人を中心に創作されたくれば太鼓等々、どこの町や村でもそうであるように大山田村でも村人の中にあるエネルギーを感じました。

平成7年1月には待望の温泉が湧出しました。1500mの地底から自噴で毎分100ℓの豊富な温泉が湧き上がったのです。この温泉をどのように活用するか。基本構想や基本計画を策定する中で、温泉資源の活用について審議



浴室：ささゆり



浴室：檜杉（けさん）



柳の湯

する温泉審議会の方々と、先進事例を研究しながら議論を重ねました。大山田村の温泉活用施設の目標として「村民が参加する施設運営」を掲げました。村人の知恵や行動力を活かすことにより、村づくりセンターとしての機能を与えようと考えたからです。幸い温泉審議会は、議会の代表、商工会、J A、地区の代表など多様な人々で構成されており、厳しいながらも前向きな議論が展開されました。森林組合や漁協、伊賀焼組合、伊賀酒造組合、子延の集落の区長さんなど、役場の担当者の方がさまざまな議論の場を作ってくれました。

大山田村では、今までこのような施設の運営や経営の経験がなかったため、組織づくりは、僕たちがお手伝いしてきた先進地のご協力を得て、組織づくりや運営のノウハウの勉強をさせていただきました。

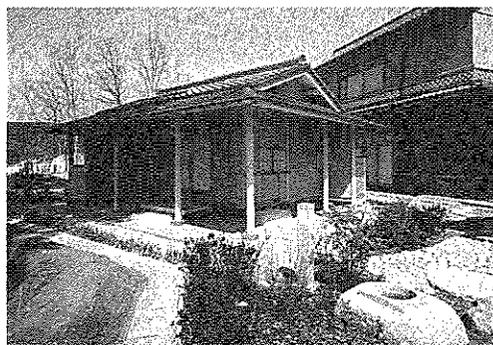
こうして構想から基本計画、基本設計、実施設計に3年をかけ、平成9年10月造成工事に着手し、平成11年3月2期にわたった工事が完成しました。

敷地は子延の集落や西教山、笠取山を一望できる山林約5haで、ここに温泉施設、研修棟、茶室、工房棟、展示販売棟、広場、ゲートボールのできるテニスコート、デイキャンプ場などで集落を構成するようにデザインし配置しました。

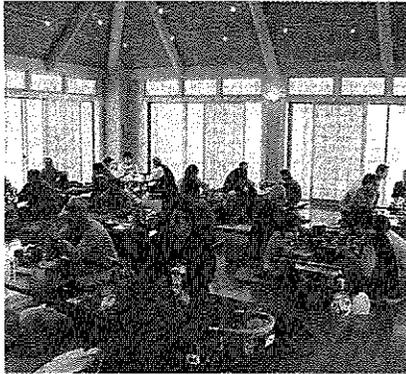
この森をはじめ施設の愛称を村民から募集し、この森を「そうぞの森」と名づけました。「そうぞ」とは、この地方の方言で「皆」という意味です。この森を「みんなの森」として、大山田村民の知恵で「創造的に運営していく」そして「多くの人々と交流する」場とする願いを込めて名づけました。また、中心施設である温泉施設は「さるびの」としました。冒頭の芭蕉の句「猿の蓑(さるみの)」と、集落子延(ねのび)を合成して、ちょっとユーモラスで親しみやすく、人や文化が往来した伊賀街道、そして大山田村を象徴させたものです。「さるびの」は、外壁を伊賀焼風のタイルとし、特産の瓦をふんだんに使い、大山田村で栽培されている蘭の花の咲く浴室「ささゆり(村の



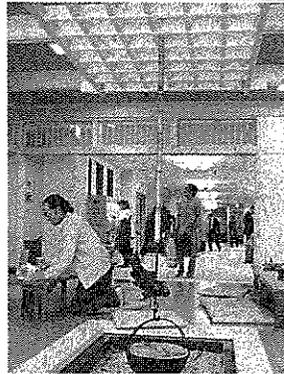
交流サロン



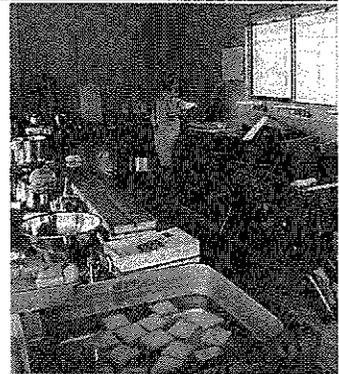
茶室



伊賀百彩くれは



いろりの庵



こんにゃく工房

花)」、檜や杉でできた浴室「檜杉(けさん)」、ゾウの足跡やワニの足跡の露天風呂「淡(あわ)の湯」、伊賀の地酒に因んだ酒樽風呂や伊賀焼ゆかりの登り窯風呂のある露天風呂「柚(そま)の湯」の他、デイサービスセンターとしても運営される家族風呂(木の花湯)やリハビリ浴室(ひょうたん湯)の温泉、大山田村や伊賀の農産品や特産品にこだわった大山田村の味レストラン「くれは」、大小の休憩室やロビーで構成されています。工房は「ふるさと工房」として大山田村民が参加して運営することをめざしました。3つの工房のうち1つは「こんにゃく工房」として子延の集落の人々によって運営されています。

4月1日、「そうぞの森」がオープンしました。大山田村は名古屋からも大阪からも車で約1時間30分の距離にあり、多自然型居住地域として生活に根ざした景観を満喫できる村です。そして構想の時から皆で議論してきたように大山田村にこだわり、自らの手作りの運営をモットーとして運営を開始しました。村長の心配をよそに、オープン早々沢山の人がそうぞの森にやってきました。オープン後10日間で1万人を超え、職員は今少々疲労気味。慣れないことばかりで大変ですが、これからもこだわりの運営を続けていってくださることを願っています。

(大阪事務所 こうさか けんじ)

うまいもの通信②

「そうぞの森さるびの」では大山田村にこだわった味を楽しむことができます。大山田村で育てられたまぼろしの伊賀牛やふるさと工房のできたてのこんにゃく、大山田産のしいたけなどを使った「くれは」の料理はどれをとっても手作りで、きっと満足してもらえんと思います。さて、このこんにゃく、実は俳聖芭蕉翁が奥の細道の長旅に疲れ、長野越えで高熱が出たときに食し一夜にして元気になったと伝えられ、「芭蕉こんにゃく」と呼ばれています。温泉とのあわせ技で元気百倍は間違いなし。注文してから料理が出るまでには少々時間がかかりますが、これもすべて手作りの故。ゆったりした時間が流れる大山田村ならではのこと。皆さんもちょっと贅沢な時間と温泉を是非一度ご賞味あれ。



大山田の味、さしみこんにゃく
“芭蕉こんにゃく”(写真左)と鹿さし(写真右)

全国に広がる「中学生のための防災まちづくり読本」

森脇 宏

全国各地の中学校から読本送付の申込が到来
いま、全国約180校の中学校に、「～阪神・
淡路大震災から学ぶ～『中学生のための防災
まちづくり読本』」が広まっており、約2万
6千部の読本が生徒に読まれ始めています。
この読本は、建設省近畿地方建設局震災復興
対策本部が発行（製作は(社)近畿建設協会）
したものです。読本を普及するため、全国の
中学校約1万1千校へ宣伝用リーフレットを
送り、授業に読本を活用していただける場合、
授業のレポートと生徒の感想文の提出を条件
に、必要部数を無料で送ることで申込を受け
付けたところ、北は北海道から南は沖縄まで、
文字通り全国から申込がありました。さらに
約30校からも、検討のために見本送付が申し
込まれています。

一昨年度から昨年度にかけて、同じ大阪事
務所の高田君と、この読本の製作と普及をお
手伝いしましたので、製作過程で議論となっ
た論点や、読本の概要等をご紹介します。

なぜ防災まちづくり教育なのか

まず、読本をめぐる議論となったのは、
なぜ防災教育やまちづくり教育でなく、防災
まちづくり教育なのか、ということでした。
この点については、次に述べる従来の防災教
育やまちづくり教育の実態から、ご理解いた
だきたいと思います。

すなわち、防災教育は、これまで多方面で
多様な実践が取り込まれ、既に内容的にも確
立している感がありますが、災害の危険性
に対する認識を深め、災害発生時における通報、
避難、消火、救援、応急手当等が中心であり、
「災害に強いまちづくり」という視点は、残

念ながら弱いと指摘せざるを得ない状況です。
確かに、現在の防災教育の内容は、不可欠な
ものではありませんが、被害を防ぐには決して
十分ではないと考えました。現に、阪神・淡
路大震災の死亡原因で最も多かった圧死は、
瞬時に倒壊した家屋等によるもので、これを
防ぐには、災害時対応を中心とした現在の防
災教育だけでは難しく、耐震性の弱い老朽家
屋を建て替えるまちづくりのように、事前の
対策が最も求められていたのだと思います。
また、死亡原因で次に多かった焼死について
も、震災時にも使える消火水がなかったこと
や、延焼を遮断する広い道路がなかったこと
などが決定的であり、これらは「災害に強い
まちづくり」でないと対応できない課題だ
と思います。

一方、まちづくり教育の方は、まちづくり
には安全（防災を含む）、快適、便利等の側
面があること、まちの点検や評価など体験に
基づく学習を組み込むこと、まちを自らつく
っていく態度を育てること、などが重視され
ていますが、部分的な取り組みが多く、系統
的なカリキュラムや教材の開発が遅れている
状況です。15年前に「まちはみんなの宇宙
船」という優れた小学生用の教材が出版され
ていますが、それ以降のフォローがされずに
今日に至っているようです。このため、教育
現場でまちづくりを教えることは、その必要
性を感じる先生にとっても、たいへん難しい
状況にあります。

以上の状況を踏まえ、この読本では、従来
の取り組みを補完するものとして、防災まち
づくり教育を位置づけ、防災というわかりや

すい切り口から、まちづくり教育を展開することを目標としました。

何を、どこまで、どのようにして教えるのか

読本策定で最も取り扱いが難しかったのは、「まちづくりの仕組みと参加の方法」という部分でした。読本には、これ以外に、災害に強いまちづくりの重要性、災害に強いまちの要件、みんなが望ましいと思うまちと災害に強いまちの関係なども記述しており、それぞれ苦労はしましたが、その中で「まちづくりの仕組みと参加の方法」の難しさは、質的に異なるなどたいへんでした。

この最大の原因は「何を、どこまで、どのようにして教えるのか」というまちづくりの系統的なカリキュラムが、確立されていないところにあると思っています。この点では、早くからまちづくり教育に取り組んでいる英米では、総合的な学習課題として位置づけられ、カリキュラムの開発も普及も進展しているようで、この彼我の違いが、実際のまちづくりの差の背景でもあり、結果でもあると思っています。

また、モデルが少ないことも、原因の一つとして挙げられると思います。住民がまちづくりに参加する例として、まちづくり協議会等を紹介しましたが、制度的に十分に確立されたものではなく、全国の何処でも取り組まれている事例でもありません。中学生が学ぶには、身近にモデルがあることが望まれますが、数少ない先進事例しかないため、参加の方法に普遍性やリアル感を持たせることが難しくなっています。

学校教育からみたまちづくり教育の位置づけ

学校教育の中で、まちづくり教育を展開してもらうには、学校教育の立場から、どのように位置づけられるかが重要と思われます。その点では、最近の学校教育の中で、横断的



・総合的な学習が、総合学習として重視されていることに留意する必要があります。総合学習は、中央教育審議会で「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質と能力を育てること」などをねらいに位置づけられ、新しい学習指導要領でも授業時数が設定され、環境教育や国際教育等が例示に挙げられています。

一方、まちづくり教育の学習課題としては、「まちづくりは身近で大切なこと」「まちづくりは、みんなで考えて決めること」「答えは必ずしも一つに決まっているわけでないこと」「様々な意見があるのが当然で、話し合っていて調整することが大切なこと」などが挙げられ、読本もこれらを意識して製作しました。このような学習課題は、総合学習のねらいと合致し、その具体化という面を持っています。しかも、我が国の人口の大半が都市に住む今日、まちづくり教育は、都市に関する総合的な学習であり、総合学習にふさわしいテーマと考えられます。だからこそ、全国から多くの申込があったのだと思います。

以上の論点以外に、「まちづくりとは何か」とか、「一人で読んでわかる読本」と「授業で用いる教材」との区別など、幾つかの重要な論点がありましたが、紙面の都合上、別途の機会に譲りたいと思います。

読本の概要について

このような読本を建設省が発行することになったのは、阪神・淡路大震災の被災実態と、復旧・復興のまちづくりの教訓が大きく影響しているようです。すなわち、災害に強いまちづくりを進めるには、防災まちづくりに対する市民の理解や認識を深めることが極めて重要であるとの考え方から、将来のまちづくりを担う中学生が、まちづくりについての認識を深めることを発行目的としています。

読本のあらすじは、東京から神戸の親戚へ遊びに来た中学二年生の「つよし」が、阪神・淡路大震災の話を知っているうちに「災害に強いまち」に関心を持ち、夏休みの自由研究として調べることにし、神戸のいところで同い年の「みどり」が手伝うというものです。

また、読みやすくするため、二人の会話を軸にストーリーを進め、写真、イラスト、図表等を豊富に盛り込んでいます。

内容的な検討に当たっては、田中恒子先生（大阪教育大学）に座長をお願いした検討会を設け、室崎益輝先生（神戸大学）、新田保次先生（大阪大学）をはじめ、中学校の先生、被災自治体の職員の方々にもご参画いただき、いろいろご示唆をいただいています。

なお、読本は、授業で活用していただける中学校への送付が基本ですが、若干の残部もあるようですので、公共団体であれば、(社)近畿建設協会（FAX：06-6941-1375）へ申し込まれると、送っていただけると思います。

（大阪事務所 もりわき ひろし）

きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況

三木ホースランドパークがオープンしました 内村 雄二

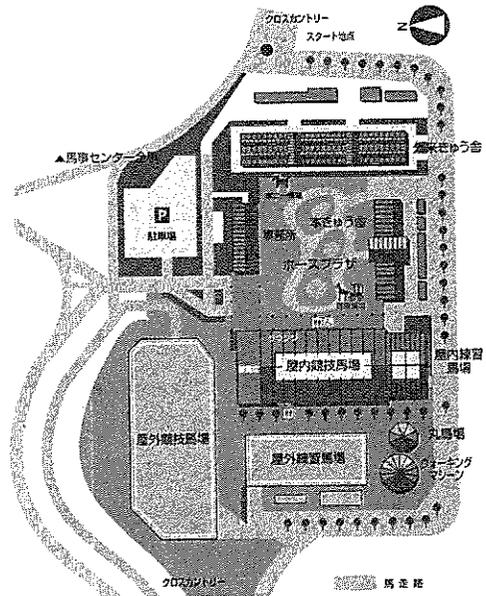
前号（NO.94）のニュースレターでご紹介したように、三木ホースランドパークがオープンしました。4月2日午前11時から開園式典が、市長さんはじめ関係者によって催されました（一般利用は翌日から）。ここでは、前号より少し詳しく施設案内をします。

今回開園したホースランドパークは約140haの広さで、「エクウスの森」、「ミオの森」、「エオの森」といった3つの森（ゾーン）によって構成されています。

エクウスの森（国際馬事ゾーン）

ホースランドパークの最も特徴的な施設が、エクウスの森です。屋内外の馬術競技施設の他に、野外騎乗をとまなう総合馬術と国際大会可能（馬の検疫施設を装備している）ということが、規模的にも内容的にも国内唯一の国際級の馬事施設の理由となっています。エ

クウスの名は、エクウス・キャバルスという約100万年前に生存し、初めて1本指の蹄をもった体型に完成したとされる馬の名称に由来します。馬術・乗馬というのは、進化と改良によって行われるスポーツであるという意味を含ませています。馬術・乗馬というスポーツに限らず、緑の中での馬とのふれあいは、



馬事センター配置図 出典：パンフレット



ふれあいの館

こころ豊かな出会いも演出します。〈エクウスの森連絡先：0794-83-8110〉

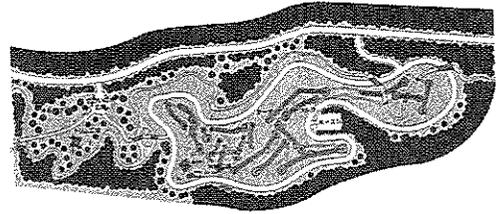
ミオの森（産業文化ゾーン）

メインアクセス道路である国道175号から来て、ホースランドパーク全体のエントランスにあたるところがミオの森です。ミオとは、ミオヒップスという2500万年から4000万年前に生存した馬の先祖のことです。他の2つの森のネーミングの元となったエオヒップスとエクウス・キャバルスとの中間期に生存したといわれていますが、このゾーン名である産業・文化が、人間が誕生してから未来に至る中間に位置するという意味だそうです。来園者に対する各種活動案内、施設紹介を行うところで、ふれあいの館という建物とふれあいの森という野外レクリエーションのため林間園地（いずれもアルバックで設計監理をさせていただきました）によって構成されています。

〈ミオの森連絡先：0794-86-1250〉

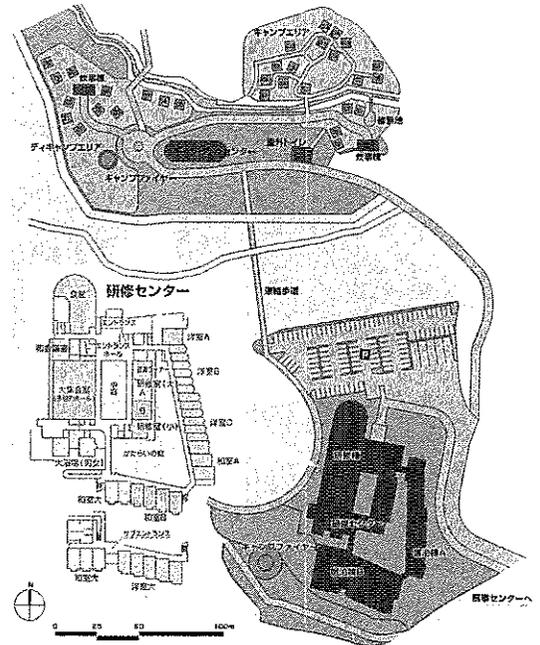
エオの森（野外活動ゾーン）

エオとは、約6000万年前に生存していた動物で、馬のはじまり（原点）といわれるエオヒップスにちなんでいます。野外活動を主体とするこのゾーンでは、自然の中に人々が回帰し、自然や生き物とふれあい人間性を取り戻し原点に戻るという意味を含ませているそうです。施設は、里山の雑木林を生かした研修センターとキャンプ場からなりますが、アルバックが設計監理をさせていただきました。研修センターは、しっとりと落ち着いた木調

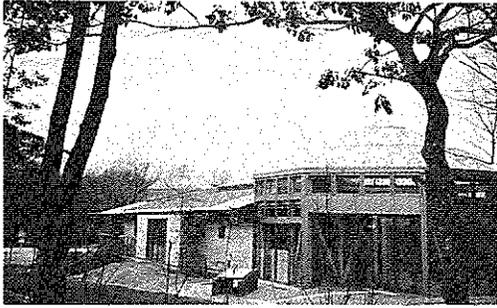


ふれあいの森
出典：パンフレット

（大断面集成材と木製建具、板貼等）でデザインし、ゆったりとした空間を演出するようにつとめました。和洋のユニークな各宿泊室の大きめの窓からは、三木山の大自然を駆ける馬の姿がみえるように工夫しています。小鳥のさえずりや風音など林間の豊かな自然を享受しながら、交流を深めるコミュニティゾーンとしても利用できます。キャンプ場は、手軽に日帰りでキャンプが楽しめる「デイキャンプエリア」やテントが設営できる一般的な「キャンプエリア」、さらに工作室やリーダー室、シャワー室も設置された「キャンピ



エオの森
出典：パンフレット



キャンピングセンター

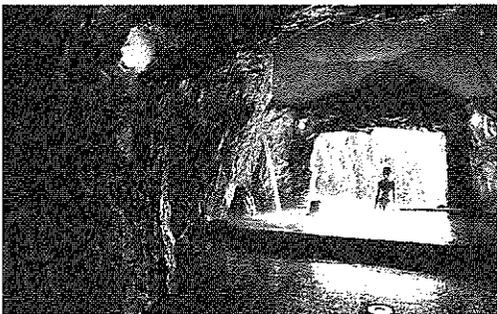
「キャンピングセンター」があります。テントはもちろん、バーベキューコンロセット、野外料理セットなどの貸し出しも魅力です。〈エオの森連絡先：0794-86-1771〉

以上のように、自然と人とのふれあい、そして出会いをコンセプトとした三木ホースランドパークですが、時間に余裕をみて、のんびりとした気持ちで散歩・ハイキングをしに行く感じで是非一度訪ねてみてください。とくに馬の顔を見つめていると、日頃忘れがちな優しさや思いやりのこころを喚起するひとときを体感しますが、これはお金では買えません。

(大阪事務所 うちむら ゆうじ)



洞窟展望風呂入口



ライトアップされた洞窟展望風呂

“リフレッシュパークゆむら”に 新たな露天風呂が誕生

倉本 恒一

“リフレッシュパークゆむら”は、兵庫県温泉町に1986年にオープンし、以降利用客は順調に伸び、10年で起債の償還を完了するなど、公的温泉活用施設としてのモデルケースとなってきました。しかしこの数年来、観光客の落ち込みが続き、“リフレッシュパークゆむら”の利用客の減少が見られるようになりました。そのため、施設設備の更新と共に新たな施設サービスについての見直しがされました。再整備計画の課題は、一つは新たなターゲットの開発、二つ目は在来客へのサービスの向上、三つ目は在来設備等の更新です。

その見直し計画の一つとして、平成10年度工事で、男女の大浴場に裸浴の露天風呂と水着着用の露天風呂ゾーンに洞窟展望風呂が新たなメニューとして誕生しました。併せて設備配管の改修等が実施されました。

裸浴の露天風呂は、お年寄りなど水着着用の露天風呂ゾーンに行かない人にとっては以前から要望の多い施設でした。洞窟展望風呂は、洞窟の中から見晴らしの良い景色を眺められる風呂で、新たなリフレッシュの名物となるものです。設備更新としては、ここの特徴である高温の温泉を活用し、冷暖房の昇温から給湯まで温泉熱を段階的に利用していますが、その最後にオーバーフローしていた温泉を更に有効利用するための改修工事です。

新たなターゲットの開発としては、もっと子供の遊べる施設を設け、ファミリー層の利用増加をねらい、レジャープールの新設など様々な案が検討されています。しかし、周囲が山に囲まれ、新たな施設のスペースに余裕がありません。今回の洞窟露天風呂は、狭い

谷に既に四種の風呂が配置された露天風呂ゾーンに建てることになりました。

洞窟展望風呂は、既存の露天風呂動線を延長し、尾根の先端部に向って山肌を削っていくこととなります。尾根の先端部は、高台で見晴らしが良い場所ですが、山は風化岩で急勾配なため削るのは危険な場所でした。そのため、バックアンカーで山止めを施した上に、コンクリート擁壁を兼ねた構造物で、半分山に埋め込まれたトンネル状の洞窟にしました。自然の岩が露出した形態にするため折り曲げられた躯体で造られ、洞窟の内外共FRP樹脂製の疑岩と自然石を組み合わせています。洞窟の折れ曲がった通路の先端部に、展望のきく開口部のある浴槽があります。浴槽や通路の床に埋め込まれた照明が、滝の打たせ口やごつごつした岩肌を照らし幻想的です。浴槽から眺める景色がこの売り物です。

疑岩工事はFRP製と思われないう、表面の形状や色、ぼこぼこ音がしないよう苦心されています。洞窟はできるだけ山の中に埋め込みたかったのですが、地盤の問題もあり、配置上、洞窟下の石積や開口部分などが大きく露出する形となりました。前面の壇上部分や石積内に植栽を施していますが周囲の景観に馴染むには時間が掛かりそうです。利用者にはまずまずの好評を得ているとのことで、一安心です。

工事は、やりにくい所で、露天風呂を営業しながらの工事となり、手間の掛かる複雑な形態で、しかも雪の中の工事となるなど、職人の方々は大変ご苦労さまでした。リフレッシュパークは、職員の方が客のニーズに応じ設備の手入れや、外構工事など自ら行っています。これからもリフレッシュパークが多くの人に利用されていくよう願っています。

(大阪事務所 くらもと つねかず)

芝生の小山の体育館

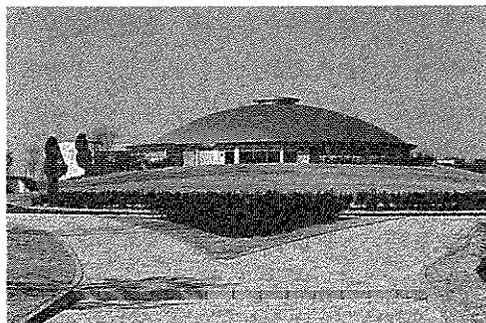
～小野市匠台公園体育館“おのアクト”
がオープンしました～

前田 怜嗣

小野市匠台公園体育館『おのアクト』は、兵庫県小野市南部にあり、山陽自動車道の三木・小野インターから車で5分、小野工業団地、小野流通団地の間に位置する小野市匠台公園内にあります。流通団地、工業団地へのアプローチは景観や植栽に配慮され、車で走るのに気持ちのいい道路です。また、近所の方の犬の散歩姿や、従業者の方のジョギング姿もよく見かけます。

施設は、そういう中で、市民と新都市の方々の交流施設として、また、グリーンネットワークの核の一つとして、計画されました。

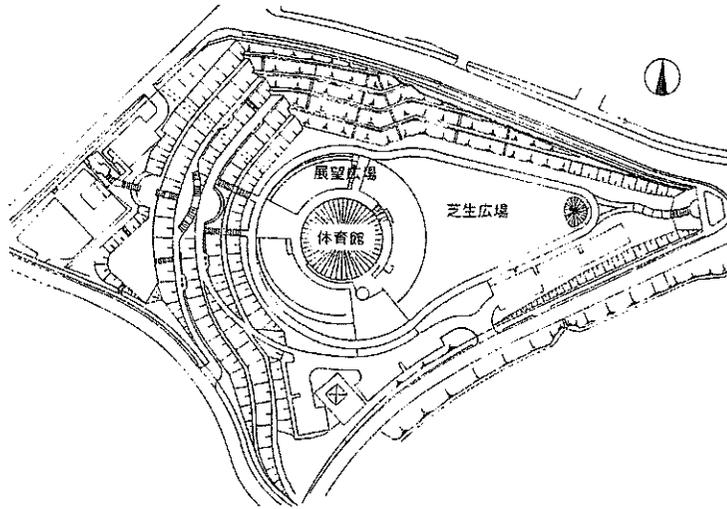
敷地は、4周道路に囲まれています。北側道路と南側道路の高低差が20～30mあり、平地の少ない丘状の敷地です。平面的には、平地部分の造成を最低限度に抑えるために変



「おのアクト」外観



「おのアクト」内部



型の台形のような形状となりました。また、周辺はなだらかな丘陵地がつづきます。これらより、『なだらかな丘』をコンセプトに、敷地に融合するような形としました。

融合をひと言で言えば、芝生の丘と施設を一体とした事です。具体的には、直径54.7mの円の中に、練習用バレーボール2面程度の競技スペースとトレーニングルーム、管理部門をもつ小体育館をおさめ、建物の高さ方向のボリュームを突出しないように、1階部分を芝生の丘の下に埋め、公園部分と一体となるようにしました。又、芝生の丘と回遊できるようにも配慮しました。

屋根は、20本のビルドH（製作物のH鋼）と圧縮リングで構成し、アルミ板で葺き、緑との対比でみせました。鉄骨建て方時や天井内装などの施工時には施工側の提案より、場内床に円形にレールを設置し、橋の様な足場が回転するようにし、工事の安全と施工のやりやすさに一役かいました。

内部空間は、土に埋まった＝暗いというイメージとは対をなすように、ロビーや階段室には自然光が充分入るように、トップライトやドライエリアからの採光をとりました。

公園部分は、竣工式に小野市人口5万人達成の記念植樹が行われ、法面も含め約4,000㎡の低木と172本の高・中木、223本の桜を主体に植栽されました。

今、それらが育ち、桜の丘となる近い将来の春を待ちわびています。

（京都事務所 まえだ さとし）

'99年新人紹介

20年後の日本のごみを変えるため

後藤 久美子

ふと顔を上げると大阪城公園の新緑が目飛び込んできます。もうずいぶん見慣れた風景になりましたが、初夏、盛夏、初秋、初冬、冬、



早春、春とそれぞれ違った表情を見せてくれます。アルバックに来て、もう10ヶ月が過ぎましたが、この景色のおかげで、季節の移ろいを忘れずにいることができました。

申し遅れました“私”は昨年7月から、大阪事務所第1計画部、通称“ごみチーム”の一員としてお世話になっています。自治体の「ごみ処理基本計画」の策定を主な業務とし

て来ました。“ごみ”とのつきあいはもう15年になります。その間、ごみを取り巻く環境はめまぐるしく変化し、“ごみ”を生業とすることがやっと市民権を得たのも、この頃のことではないでしょうか。ましてや“ごみ”について排出者でしかなかった、人たちが、ごみを考え、ごみについて語り、ごみ減量の実践者となってきたのはほんの数年前のことです。とは言っても、実際に家庭から出るごみの調査をしますと、まだ使える物、封を開けてもない食料品等心が痛むほど出てきます。便利で快適な生活を享受してきた身にとっては「使い捨てはやめよう」、「買い物袋を持って買い物に行こう」等と言っても限界があるのかもしれないとふと思ったりもします。そもそも、我が家から出る“ごみ”を見ても、「紺屋の白袴」よろしく減量可能物がなんと多いことか。我が身を省みて、意識と行動は必ずしも一致しないことを痛感しつつ、それでも20年後の日本のごみを変えるために、これから頑張るつもりです。

どうぞよろしくお願ひ致します。

(大阪事務所 ごとう くみこ)

自然の中で遊ぼう！

吉田 久視子

今年4月からアルバックの一員となりました吉田です。よろしくお願ひいたします。私の専門は「植物」ですが、なぜか地域計画建築研究所というところに入ってしまった。おそらく、最近の地域計画や都市計画は人間以外の生き物に対する配慮なくしては語れないということから、植物を学んできた私が入る隙間を得たのだと思います。しかし、学生

の頃に描いていた将来とのギャップと今後の期待や希望感で頭の中はまだ混乱しているというのが正直な状況です。

私がこの会社でできることは何なのか、まだぼんやりとしか見えてこない状態ですが、自分の専門以外の事はこれから勉強していきたいし、自分の専門分野は今後さらに磨きをかけていきたい、と意気揚々とはりきっています（くじけやすいですけど）。

私が最近よく考えることは、「自然を経験せずに自然を知ることにはできない」のではないかということです。これは一見、当たり前のようにかなり極めた真実だと思います。自分の知らない自然を資料だけでまとめるのは多分簡単にできる。でもそれでいいのだろうか。つきつめれば、仕事って、「客観的な」結果は同じでも、自分がどれだけ誠意を込めたかで、「主観的な」結果は全く違ったものになるのではないかという気がします。有機生命体は時間（年齢）との勝負だから、「おりあい」も必要なのかもしれない。でも可能な限りの範囲でいいから、私は生の自然をみていきたい。生の自然を多く見て、自信を持って仕事をしていきたいと思っています。

(大阪事務所 よしだ くみこ)



編集部より

新年度を迎え、読者の皆さまの住所などの変更がございましたら、同封の宛先確認ハガキ・FAX用紙にて編集部までご一報をお願いいたします。また、感想覧を設けていますので、皆さんのご意見・ご感想をお寄せ下さい。

まちかど

事務所近くで見つけた空き地と隙間の活用事例

名古屋事務所街角探偵団

バブル崩壊以来、各地で空き地が目立っている。その活用例として写真①のような時間貸し駐車場が急激に増えてきた。ところで私たちの事務所のあるナディアパーク近辺では、この他にもちょっと面白い例が幾つか見られる。写真②はベンチをあつらえた自販機専用スペースで、街角の憩いの場になっている。写真③は粗放的に成りがちな立体駐車場の余剰空間を飲食店として活かしている。写真④は隣接するビルの壁を外壁に使い、樹脂製の波板を屋根に掛けたうどん屋で、ほとんど建築コストを掛けていない。勿論うどんも低料金だ。写真⑤は車2台ほどの空き地にできた売場だけのテント掛けパン屋である。こんな仮設型の自然発生的な空き地利用でも、町に賑わいを創ることができる例として面白い。あなたの町は如何でしょうか。



何処にでもあ一般的な例：
写真①：最も多い時間貸し無人駐車場

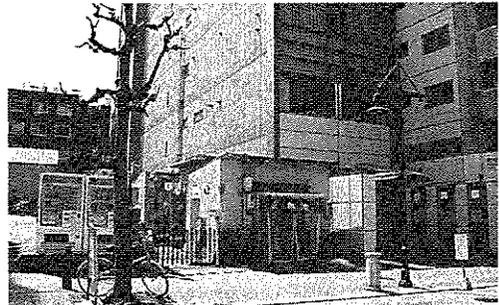
ちょっと面白い事例



写真②：清涼飲料水の自販機スポット



写真③：立体駐車場空き地部分の飲食店化



写真④：屋台式うどん屋



写真⑤：屋台式パン屋

アルパック (株)地域計画建築研究所

- 本社
- 京都事務所 〒600-8007京都市下京区四條通り高倉西入ル立売西町82・大和銀行京都ビル6F/TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764
- 大阪事務所 〒540-0001大阪市中央区城見1-4-70・住友生命OBPプラザビル15F/TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478
- 名古屋事務所 〒460-0008名古屋市中区栄3-18-1・ナディアパークビジネスセンタービル13F/TEL(052)265-2401 FAX(052)249-3925
- 東京事務所 〒160-0022東京都新宿区新宿2-5-16・霞ビル401/TEL(03)3226-9130 FAX(03)3226-9560
- 九州事務所 (株)九州地域計画研究所 〒810-0001福岡市中央区天神1-15-35・ホンダハビエ5F/TEL(092)731-7671 FAX(092)731-7673